



○ 全専各連協議会

正式名称は「平成 29 年度全国専修学校各種学校総連合会中国地区協議会総会並びに研修会」です。山口県が 5 年に一度引き受けとなるこの会が 13 日（木）に山口市のホテルニュータナカで開催され、私はこのたび初めて参加しました。赤池参議院議員、星川文部科学省専修学校教育振興室長補佐、村岡知事、山口市長をはじめとする 13 名の来賓をお迎えして、中国 5 県から 150 名もの参加者が集まり、研修を進めました。

7 月 11 日が「職業教育の日」ということもあり、専門学校等の存在価値を再認識し、特色をアピールし、学生たちを本校の校訓のように“鍛え磨く”ことにより、優れた人材を社会に送り出す使命を確認した協議会となりました。

内容をごく簡単に紹介すると、総会・研修会（文部科学省行政説明・中央情勢報告）・講演会そして懇親会でした。参加者名簿を見て気づいたことの一つに、「保育」という文字を使った学校は本校だけだということです。もちろん保育に関する学科等を設置しているところではありますが、本校のセールスポイントにはなりそうだと思います。

講演は演題を「松下村塾における全人的教育」とした松陰神社の青田宮司のお話でした。吉田松陰（敬称略）のことは山口県民であれば皆知っているはずですが、それどころか全国的にも知名度は高いはずで、〇〇松陰高等学校というところもあります。近年大河ドラマにも取り上げられていますので、私も全体像は認識していたつもりですが、講演での話の中にはまた新しい情報がありました。私がいくつか心に留めたものの中から二つ紹介してみます。※私が感じたことを文章にしますので、講演者の伝えたかったことそのままではないかもしれません。

一つ目は、時には今でいう“ダジャレ”を使うようなユーモアのある人だったようだということです。場を和ませるような心づかいができる人だったのではないかと思います。二つ目は、「批判もOK」ということです。その「批判」をもとにした討論・議論を重ねることによって、お互いの考えが整理され、よりよいものを皆でつくりあげることができるというような内容でした。あらためて勉強させてもらいました。

懇親会に参加して自宅まで電車等で帰るのは不可能なので、この晩はこのホテルに泊まり次の日に山口から出勤しました。かつて市内に単身赴任で暮らしていた湯田が、違う別の街のようにも見えて、不思議な感覚を味わいました。

自校自賛

梅雨明けが近い（金・土）に本校の植樹等の選定作業を行っていただきました。散髪が行われた風景はさわやかです。再びペットボトル風車を以前とは違う場所に設置して楽しんでみました。するとウォーキング中の女性二人から「きれいに作ってありますね。」と声をかけられました。関心をもっていただいていることが分かり、うれしく思いました。

